



アメリカで大流行「大麻成分CBD入り美容クリーム」その効果とリスク

18



10月(火)7時の配信

NEWSポストセブン

適法・安全なCBDは日本に1つだけ

引地さんは、本当に適法のCBDを輸入しており、品質にも自信のある業者は、CBD精製の工程ごとの濃度分析表や、禁止部位を100%排除していることがわかる写真を取り寄せて、ホームページなどでも公開していると話す。実は、日本のカンナビノイド審査委員会の審査を通過した原料会社はいまのところ、米オレゴンバイタリティ社の1社のみ。日本総代理店の広報担当者が言う。

「安全なCBDは、THCの含有量が0.3%以下の産業用大麻から抽出します。収穫後に生の大麻の成分を分析し【1】、乾燥させた後に茎を分離します。大麻は強い粘りと繊維を持つため、複数の特殊な分離機に10～13回ほどかけなければなりません【2】。その後、原油を抽出して【3】CBDだけを取り出し、残留農薬や重金属がないか検査したうえで【4】充填、出荷し、日本に運び込まれてから再び成分分析をします【5】。

この工程でつくられたものは『CBDアイソレート』といわれ、THCが混入することがない精製方法です」

引地さんは、適法な業者であれば、この【1】～【5】のすべての工程における分析表を公開しているはずだと話す。

「この5つの工程で、CBDやTHCなどの濃度分析表をホームページなどに掲載していなかったり、問い合わせの際に開示しないようであれば、その業者は疑って見るべきでしょう。それぞれの分析表の日付が近すぎたり、次の工程までの期間が空きすぎているようなら、虚偽の申告をしているおそれもあります。

一方、適法な業者なら、ホームページ上に原料となる大麻の茎の分離工程の詳しい動画や写真まで掲載しているはずだ」（引地さん）

店頭やインターネット上で見つけてもすぐに購入せず、まずは商品のホームページを確認し、可能であればメーカーに問い合わせるべきだ。怠れば、なんの効果もないニセモノをつかまされるか、知らずに違法薬物を購入する羽目になるかもしれない。

カンナビノイド審査委員会が認めたCBD原料を使用している商品には、「特定違法物質審査済証」のマークがついているはずだ。

「現在は、審査基準を満たした『オレゴンバイタリティ社製CBDアイソレート』を使用した化粧品を国内で研究開発しており、早ければ10月下旬の発売を予定しています。私自身も、テスト商品を3年ほど使用しています。いまのところ、長年悩んでいたアトピーの改善など、よい効果を強く実感しています」（前出・広報担当者）

日本化粧品協会では、今年7月、適法なCBDを使った化粧品の肌への安全テストを行った。

「基材には純度の高いワセリンを使い、0～1.5%まで、濃度を段階的に調整したCBDを混ぜて、平均年齢41・4才の健康な女性10人に48時間パッチシートを貼付してもらい、除去後24時間後までの経過を観察しました。結果、すべての被験者に皮膚刺激は認められませんでした」（引地さん・以下同）

引地さんも、来年4月以降に大麻取締法が改正される可能性が高いと話す。

「これほど人体への作用が強いCBDですから、医薬品としての利用のみ使用が認められるようになるかもしれません。そうなれば、違法な業者や怪しい商品は一掃されるでしょう。しかし、実際はどう規制が緩和されるかわかりません。“茎と種のみ”という部位規制がなくなるかもしれないし、THC含有量の許容範囲が設けられるかもしれない」

問題は、規制が緩和されれば、いま以上に違法なものや粗悪品が増えるおそれがあるということだ。わが国において、“大麻産業”自体がまだまだ発展途上で、より大規模な臨床試験も待たれる。悪徳業者のカモにされないためにも、われわれ消費者は安易に購入せず、慎重に検討すべき時期だ。

夢の成分・CBDは果たして、毒になるか、薬になるか――。

※女性セブン2021年10月14日号

アメリカで大流行「大麻成分CBD入り美容クリーム」その効果とリスク

18 10/5(火) 7:05 配信 NEWSポストセブン

持っているだけで違法！粗悪品が蔓延

CBDが日本で初めて注目を浴びたのは、2019年。化粧品成分としてではなく、薬品としての臨床効果に、厚生省が着目した。聖マリアノ医科大学医学部脳神経外科准教授の太組一朗さんが言う。

「CBDを含む難治性てんかん治療薬『エピディオレックス』に有用性があるとみて、国内でも適切な使用ができるよう、研究を進めています。早ければ、今年度中の治験開始を目指しています」

一方で、太組さんは、CBDを含む医薬品の治験こそ進められているが、化粧品としての安全性は未知数だと話す。なかでも、同じく大麻から抽出される「THC（テトラヒドロカンナビノール）」という成分は、いわゆる“ハイになる”作用や依存性がある麻薬成分で、これが化粧品に使われるCBDに混入しているおそれがあるのだ。

当然ながら、日本ではTHCが少しでも含まれていれば違法。知らずに購入したとしても、持っているだけで違法薬物所持となり、処罰の対象になる。なんと、すでに日本で取り扱われているCBD商品の中に、このTHCが混入しているものが見つかった。

「以前、日本の大手小売チェーンで売られているCBD配合商品37点を検査したところ、そのうち22点に、パッケージの表示に虚偽があることがわかりました。CBDすら含まれていないものがあった一方、違法なTHCが含まれているものも見つかりました」（引地さん・以下同）

現在、日本では、大麻取締法によって、THCの含有量が少ないと考えられている「大麻草の成熟した茎、及び大麻草の種」のみ、使用が認められている。種は七味唐辛子や食用油など、茎は繊維などの原料として古くから使われているが、CBDの国内生産はまだ認可されていない。

輸入の際も、化学合成CBDまたは成熟した大麻草の茎だけから抽出されたもののみ、税関を通ることができる。禁止部位から採れた違法なCBDは、THCを多く含んでいる可能性が高く、国内に持ち込むことは許されない。にもかかわらず、違法かつ粗悪な商品が流通してしまっているのだ。

「税関への届出は輸送時追跡番号と連絡先、3種の書類（証明書、分析書、原材料及び製造工程の写真）の提示だけで済んでしまうため、すでに市場に出回っているものを調査して初めて、違法だとわかるケースがあります。

なかには、違法品を国内で加工・箱詰めして“日本製”とうたっている業者や、成分表をシールで隠して販売している業者もあります。ひどい場合は、堂々と「フルスペクトラム（麻薬指定成分THCを含む化合物がすべて含まれている抽出物）」と書かれているものさえあります。

こうした商品はいまま全国のバラエティーショップやコスメショップに並んでいて、消費者からの依頼を受けて調査し、違法性が明らかになった事例がいくつもあります」

まだCBDについて深く知らない人が多い現状を逆手に取り、“いまのうちに”“バレないように”と、違法な商品を売りさばこうとしている業者が後を絶たないのだ。

「アメリカでは、茎以外の部位から採れたCBDも合法です。一方、茎のみから抽出する“日本向け”CBDの生産には、莫大な手間とコストがかかる。裏を返せば、日本で違法なCBDをつくって輸出できる業者は、それだけの技術や資金があり、信頼度が高いということです」



アメリカで大流行「大麻成分CBD入り美容クリーム」その効果とリスク

18 10/5(水) 7:05 記事 NEWSポストセブン



米カリフォルニア州サンタクルーズ郡の大麻畑。同郡では嗜好目的での大麻の売買が認められている（写真/Getty Images）

鉛のおしろい、生き血の風呂……美しさのためなら、女性は時に手段を選ばない。近年、アメリカから黒船のごとく伝来した新成分「CBD」も、すでに多くの女性を魅了してやまない、素晴らしい効果を秘めている。だが、飛びつくのはまだ早計かもしれない。

【表で解説】どこまでOK？ 大麻、日本では「茎」「種」のみ使用・輸入可

2010年頃、韓国発の「かたつむりクリーム」が日本でも爆発的な人気を集めたことを覚えている人は多いだろう。ハチ毒、ヘビ毒、胎盤（プラセンタ）……と、一見とんでもない成分の美容効果が注目されることは多々あるが、いま、世界中から熱視線を集めている最新の美容成分は、なんと「大麻」から採れる。

大麻から抽出した「CBD（カンナビジオール）」という成分が配合されたクリームを使うと、にきびや炎症、シミ、しわなどの悩みが劇的かつ即座に改善すると、アメリカを中心に大ブームなのだ。

炎症やくすみが消えた

CBDの特長は、なんといってもその効果にある。国内で初めてCBDの安全性を検証した日本化粧品協会代表理事の引地功一さんが言う。

「CBDという物質は、塗ってよし、のんでよしの“有望成分”です。紫外線や環境汚染などのダメージから肌を守る抗酸化作用、老化の原因となる“体のコゲ”を防止する抗糖化作用、抗炎症作用に優れているという多くの報告がされています」（引地さん・以下同）

それにより、にきびや肌の赤みなどに驚異的な効果を発揮するほか、シミ、しわ、くすみの改善や、キメを整えて肌にハリを出す、皮脂の分泌量を正常にコントロールするなどの効果も認められている。さらに、湿疹や水疱瘡、やけど、かゆみ、アトピー、アレルギー性皮膚炎、傷あと、脂漏性皮膚炎などの治療にも効果が期待できるとも。

「CBDの抗酸化作用は、ビタミンCやビタミンE以上という研究結果があります。少し肌に赤みがある程度なら、1回の使用で目に見えて改善します。朝晩、5日間も使えば、くすみが取れてワントーン肌が明るくなる。内側から発光するような美しさが実感できるとされています。

従来の化粧品には、20日程度継続使用して効果を感じるものが多い中、CBD配合の化粧品は、即効性があるのも魅力の一つです」

日本化粧品協会が美容形成外科クリニックで行ったモニターテストでは、水光注射やダーマペン（肌に微細な針で傷をつけ、その治癒の過程で細胞の活性化による肌の再生・美肌効果を狙う美容医療）施術後の傷と出血がある状態の肌に使用しても、すべての被験者に、皮膚の炎症などの副反応は見られなかった。さらに飲用によって痛みの緩和や高いリラックス作用も認められており、2018年以降は、CBDはドーピングの規制対象からも外れている。

副作用がなく、これほど劇的な美肌効果と即効性がある成分はこれまでにない。CBD配合の化粧品はすでに国内でも多く販売されている。だが、それらに安易に飛びつくのは絶対に避けるべきだ。